

# 新幹線で いいもの さがし

## こども記者団 岩手編



久我悠泰君



木村菜羽さん



山賀いちご  
さん



三和航晴君



わんこそば。食べたそばのおわんを重ねると、この通り「花巻市・やぶ屋」の通り。花巻市・やぶ屋 総本店。

## わんこそばも楽しむ



盛岡駅で見た新幹線の連結

札幌市内の小学生が新函館北斗駅から新幹線に乗って、青森と岩手を取材した「まなぶんこども記者団」(札幌市主催)。青森班に続いて、今回は岩手班の様子をしよう

かいます。詩人で童話作家の宮沢賢治(1896~1933年)の足跡をたどり、名物のわんこそばも楽しみました。

岩手班は木村菜羽さんと久我悠泰君、三和航晴君、山賀いちごさんの4人。10月14日、



宮沢賢治記念館では、学芸員の牛崎さんから説明を受けました

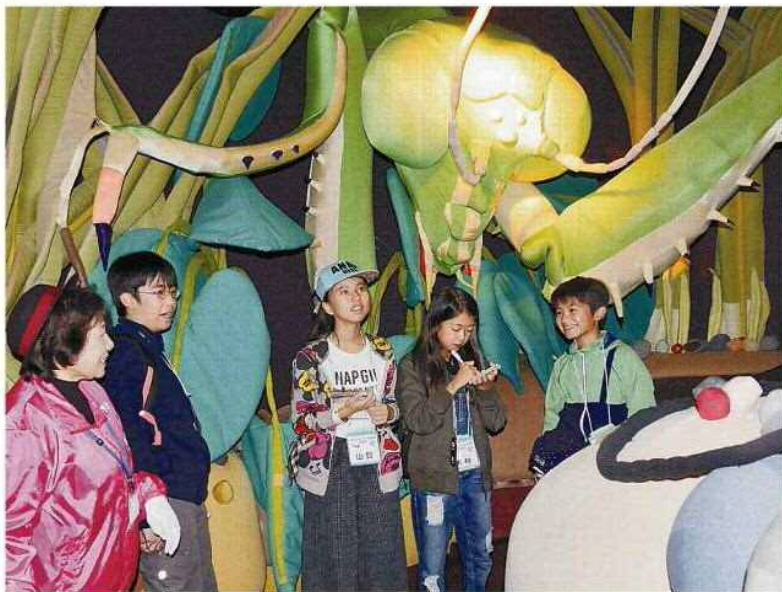
花巻市の高台にある宮沢賢治記念館を訪れました。賢治の考え方や作品について、科学や芸術、農業など分野ごとに分かりやすく解説しています。

訪ねた日は、学芸員の牛崎敏哉さんが案内してくれました。三和君は「賢治が生きた時代は、いくつもの地震や津波、凶作が続きました。賢治は詩集や童話などで有名ですが、人々のために努力した人だと知りました」。山賀さんも「作品をもっと読んでみたいと思ったそうです」。

4人は近くの宮沢賢治童話村も取材しました。施設の一つ「賢治の学校」には訪れる人がアリの大きさになり、まわりにいるカマキリなどの虫をおおき見するという展示がありました。

久我君は「多くの作品は賢治が亡くなった後に有名になりました。今では教科書にものっています。その作品の世界を体験できるのが童話村

# 宮沢賢治の足跡をたどる



アリの大きさを世の中を見ると…宮沢賢治童話村

です」とリポートにまとめました。こども記者の笑顔がはじけたのが、岩手名物の「わんこそば」です。おわんの中には、ふつうのもりそばの10分の1ほどのおそばが入っていて、それを次々に食べ、空になつたおわんを重ねていきます。木村さんは「つゆを飲まな

いです。盛岡駅で見た新幹線同士の連結も印象的でした。山賀さんは「ゆっくり近づいて、ガッチャンという音も聞こえた」と臨場感あふれる報告をしてくれました。

こども記者からは「新幹線に乗ることで、魅力あるマチに短い時間で快適に行けた」という感想が聞かれました。2030年度末に札幌までのびれば、道外の子どもたちが北海道を訪ねて、同じような感想をいただくのかもしれない。

こども記者の報告全文は「北海道新幹線つながるNAVI」(<https://hokkaido-shinkansen-navi.jp/>)で読めます。